

月報 シオン山

2023年5月7日発行 (No392)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

(ローマの信徒への手紙5章1～2節)

いのり

大里紀代子

「アーメン あー安心した」
私の祈りに応えて発した妹の言葉です。4年間続いた苦しい闘病生活も終わりに近づいていました。それから2週間後、妹は川崎の地で召されました。

私の実家では、私はただ一人のキリスト者です。父の具合が悪い時、弟から「姉さんの神様にお祈りしてくれ」と電話がありました。勿論必死で祈りましたが、願いは、きかれませんでした。それでも私は祈ります。神様は私たちの思いを超えて最善の道を与えてくださいました。

心を込めて祈る、必死で祈る、これまでの間に、どれだけ多くの祈りをし、沢山の願い事を神様にしたことでしょう。これからも祈りの生活は続きます。嬉しい時、悩む時、苦しい時、そして他者のために（これが大切だと思います）祈ります。

昔、米谷先生から合掌の額をいただきました。先生のことを思うといつも前から二番目の席に座り、熱心に宣教を聞いておられ、ときどきコックリ、コックリしている姿が「イエス、イエス」と相槌を打っているようだと話したこともありました。

米谷先生は高等学校の校長でしたが、物柔らかくよく人の話を聴かれる先生でした。

シオン山教会は、以前は靴からスリッパに履き替えて会堂に入りました。そのスリッパ並べをし、時には「どうぞ」と足元に置いてくださる方でした。今も懐かしく思い出されます。

この 100 年の間、シオン山教会では、数多くの宣教師、ジャーナマン（短期宣教師）、牧師、協力牧師が奉仕されました。特に思い出すのは、ギャロット先生が学校の道路にかがみこんでいらっしやるのに出会って「どうされました？」と効くと、少し恥ずかしそうに手を広げて、ガラス片を見せてくださったのです。申し訳ないと思いました。それは私たちがすべきことではないかと気づいたのです。また先生のお宅で若夫婦会があった頃、私たちも 3 人の子どもを連れて参加しました。子どもたちは別の部屋で遊ぶのですが、ある時ベットの上でトランポリンのように跳ねて、ギャロット夫人から叱られたこともありました。

キャンベル先生は忙しいにもかかわらず、我が家の家庭集会にも来てくださって、学生との交わりをととても喜んでくださいました。時は過ぎましたが思い出は消えることはありません。

そして今は無牧師の状態です。この時こそ私たち信徒は、心を合わせて祈り、タラントを捧げて奉仕したいと思います。神様はシオン山教会に最もふさわしい牧師を選んで、送って下さることを信じます。これからも祈りつつ奉仕を続けたいと思います。